

風水害からの避難のポイント

どこへ避難するか 事前に考えておこう



学校などに開設される水害時緊急避難場所は、自ら安全な避難先を確保することが困難な方が、一時的に避難する場所です。安全な地域に住む親戚や知人の家も避難先の1つです。どこへ避難するか事前に考えておきましょう。

▶ 在宅避難・高いところへ避難 (屋内待機・垂直避難)

「浸水・倒壊の危険がない」「丈夫な建物に住んでいる」場合、自宅にとどまり、在宅避難ができるように備えましょう。

▶ 遠くへ避難(水平避難)

がけ崩れや、河川の氾濫などにより浸水の恐れがあり、在宅避難が困難な場合、早めに安全な場所へ避難しましょう。

▶ 緊急安全確保(垂直避難)

もしも逃げ遅れてしまった場合、自宅近くの丈夫な建物の2階以上など、少しでも高い場所へ避難しましょう。

避難情報が 発令されたとき



風水害の発生が高まった状況では、以下のような情報が区から発令されます。震災時と異なり、被害が局所的に発生するため、自分で判断し避難することが重要です。

警戒レベル3 ▶ 高齢者等避難

避難に時間を要する方(高齢者、障がいのある方、乳幼児など)と支援者は避難を開始しましょう。

警戒レベル4 ▶ 避難指示

【全員避難】

速やかに避難先へ避難しましょう。

公的な避難先までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所へ避難しましょう。

警戒レベル5 ▶ 緊急安全確保

災害が発生、切迫している状況です。

命を守るために最善の行動をとりましょう。

非常用備蓄品を 準備しよう



最低3日間、できれば1週間は生活できるように、必要な食料や物品を非常用備蓄品として用意しておきましょう。

循環備蓄を心がけよう! (ローリングストック法)

普段購入している食料品などを「多めに買い置き」するだけで立派な備蓄になります(右図参照)。

